京都教育大学附属京都小中学校

（様式４−２：令和４年度　モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）にかかわる学校支援制度
実施結果報告書）

実施結果報告書

１．　学習名称：京都再発見　私たちから発信しよう 〜公共交通とまちづくりの関連を通して〜					
２．テーマ：持続可能な京都のまちづくり					
３．実施教科：総合的な学習の時間					
４．関連単元：他教科として　**国語「具体例，データ，事例の使い方」** **算数「平均，データの見方」社会「地域と産業」など**					
５．実施単元数：34 時間＋α					
６．学年	第５学年	７．クラス数	３	８．生徒数	９５名

９．実施内容

はじめに　目的・問題意識

本校では，第６学年で「京都のまちと SDGs」をテーマに，SDGs の 17 テーマを関連させながら京都で考えられる具体的な問題点や残し伸ばしたいものなどに対して提案を行う。これに繋げるために第５学年においては，SDGs において掲げられるテーマのうち「11. 住み続けられるまちづくり」に視点を絞り，現状の把握，問題点の明確化，持続可能性を考慮した提案を行う。

実態として，SDGs の１７の視点を最初から網羅しようとすると抽象的になりやすく，自らとの地続き感が薄れてしまう。すると，私事感がなく，その土地，そこで生活する人などが蔑ろにされ，どこか上滑りした一般論で終始してしまいやすい。社会学的な視点で，より具体的に深く，「今，ここ」での問題について考えたい。また，一見スタートは狭く感じるが，深い部分でつながりが見え出し，自然と他の視点とのつながりが見えてくると考えられる。この経験があることで，第６学年時に視点を広げたとしても，具体性とつながりを意識しながら，よりクリティカルな問題意識，提案をすることが出来ると考える。

内容

前半は，「深い現状把握」をテーマとする。京都のまちの現状を見たとき，事実の裏には，風土，歴史，他の特徴との関連，関わる人の思いなどが隠れている。歴史の中で，なぜそれが残ったのか。なぜそうなったのか。その必然性や関わる人々の思いなどが複雑に絡み合った結果として「今のまちの事実」がある。それら裏に隠れた事実を無視して問題点への提案をした場合，机上の空論，ただの理想論であって，実際に行動に移すには現実的に難しいものになってしまう。より具体的で現実味のある提案のためには，より深い現状把握が欠かせない。よって，目につくまちの事実と共に，関連のありそうなもの，由来など様々な視点での事実確認。さらにそれらのつながりを見るための探究（思考）が必要となる。また，ひとつの視点からの解決策は，別の

視点から見たときの新たな問題の発現となる場合もある。これらのバランスをとり最適解を創り出すためにもこの深い現状把握が必要となる。

後半は，具体的に提案を行う。個人テーマの違うメンバーによるグループ編成により，多角的な視点を担保した上で，テーマ設定を行う。その上で，調べたり，実際に調査を行い，具体的な提案を考える。また，さらに別の視点からの意見を取り入れるために，ポスターセッションを行い，事実と提案が示されたポスターを囲んで，別テーマでじっくり考えたメンバーと討議を行いより現実的な提案へと昇華させることを目指す。その上で最終的なメタ認知を行い，「持続可能な京のまち」として提案を完成させる。

１０．学習のながれ：

i. 京都ってどんなまち？（4h）

・京都のまちがどんなまちなのか思いつく限りの事実を出し合い，KJ法でつながりを考える

・ある程度のラベリングを行った後，それぞれについて「なぜそうなのか？」を考える。

ii. 深くその土地を知るとは？（8h＋小豆島宿泊学習＋2h）

・京都の歴史は古く，時代時代においての文化，歴史が複雑に絡み合い把握しにくい。「今と昔，歴史機構風土を関連させてその土地を捉えるとは？」を体験的に学ぶために，宿泊学習で訪れる小豆島について，同じように小豆島像を捉える。これは小豆島が島であるため，特産物や歴史背景もある程度限定され，関連が見やすいためである。

・小豆島像を捉えた経験を活かし，事前に挙げた京都の事実から，具体的なテーマを選定し，歴史的事実や気候，現実問題などを加味した上で，そのテーマからの「京都像」を捉える。

iii. 個人探究「京のまちの問題と提案」（6h＋冬休みに各自でレポート作成）

・捉えた京都像，考えられる問題点，解決策または提案を各自でまとめ，ワールドカフェでお互いの問題意識の共有を行い視点を広げる。

iv. グループ探究「持続可能な京のまち」（10h）

・クラスを跨いだ３人でグループを組み，お互いの興味を共有した上で，３人のテーマ設定を行う。（ワークショップ　絵コンテ「未来の京都，邪魔するもの，必要なもの，現状」）

・小豆島像の捉え，その後行った個人での視点を絞った京都像の捉えの経験を活かし，3人で共同して，グループで設定した視点から京都像を捉え直す。

・「まちづくり」「問題の明確化」「他の視点との関わり」を意識しながら，具体的な問題と提案を考え，ポスターにまとめる。

v. ポスターセッション（3h＋1h）

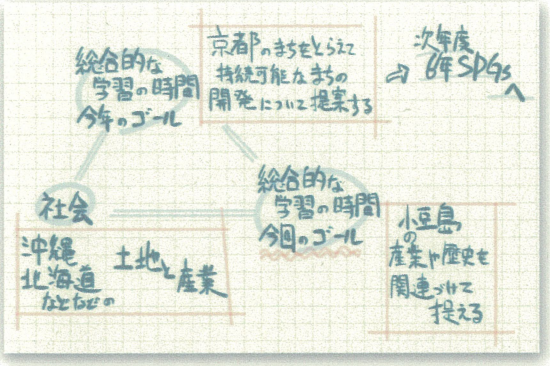
・ローテーションを組み，ホスト対してメンバーを数回変えながらポスターセッションを行い，さらに広い視点で問題について考える。

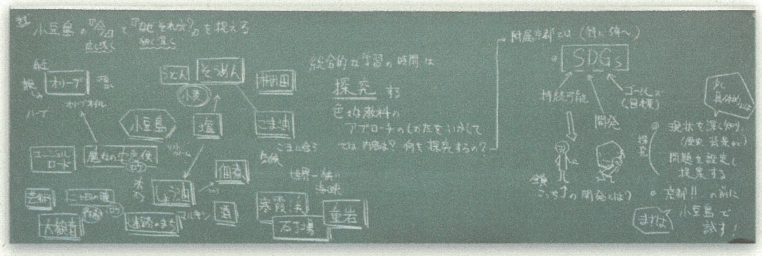
・一年間の学習と自らのテーマについての省察を行う。

※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。

添付資料

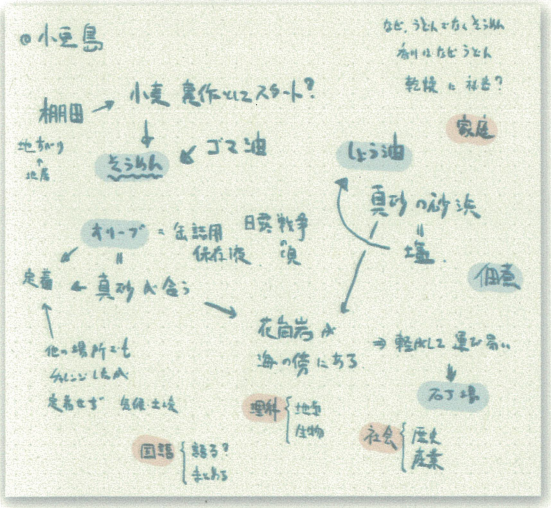
京都のまち理解と小豆島



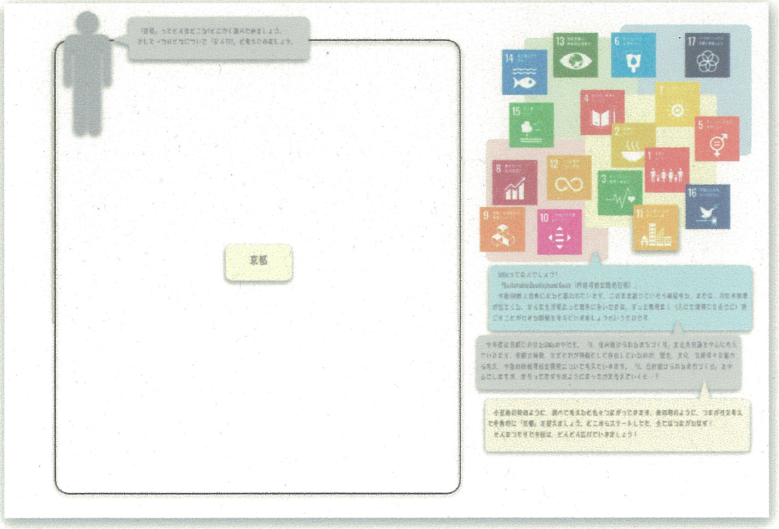


一年の学習の見通しをもち，京都の現状理解の方法を学ぶためという位置付けで小豆島について捉える。

写真上，総合的な学習の時間の内容と他教科との関係
写真右上，授業時に出された意見を構造化した板書
右写真，グループごとに調べた内容を発表する様子



左図，小豆島の有名なもの「そうめん」「醤油」「オリーブ」「石丁場」「ごま油」などのつながり，他教科とのつながりの構造図



左図，小豆島後に改めて京都について持続可能性の視点を導入しながらブレインストーミングを行なった際のプリント

持続可能な京のまち（個人）

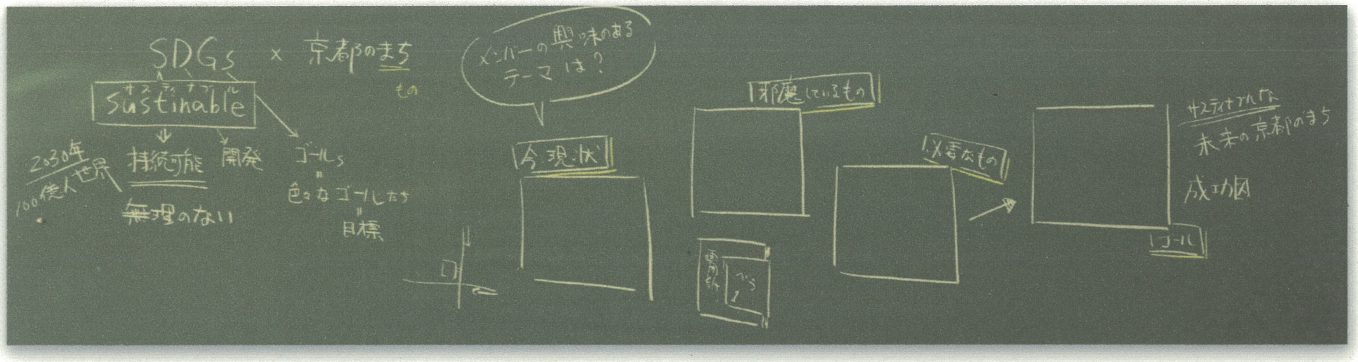
左図，個人で調べたなようについてのプレゼンテーションの様子

京都の財政，観光，観光公害，空き家，碁盤の目の道，などのテーマとともに，具体的な歴史的建造物や特産物との関係が提示されていた。

左図，同じく個人で調べたなようについてのプレゼンテーションの様子

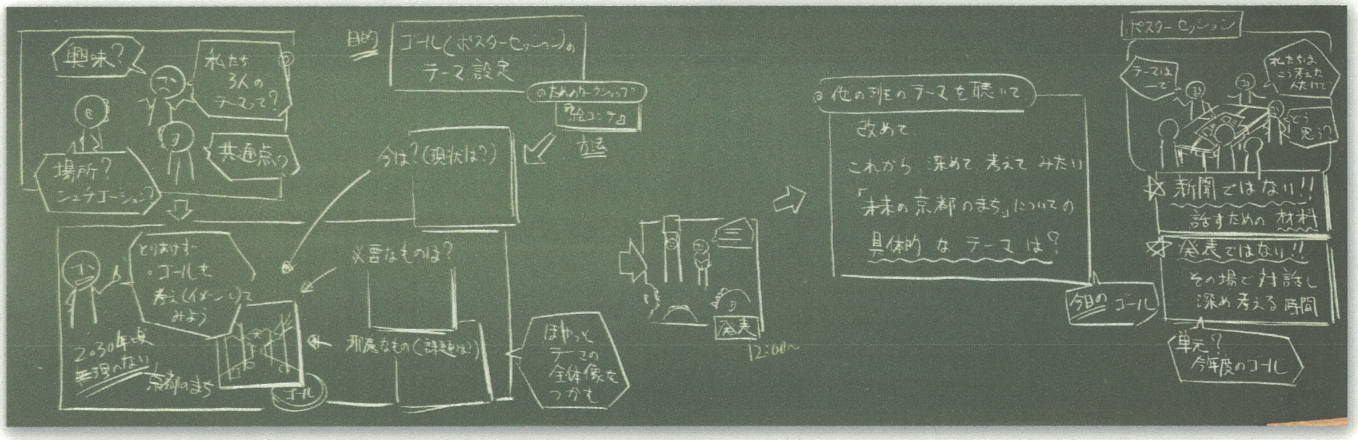
左図，様々な視点で問題を解決するにはどうしたら良いかクラス全体で考えた際に生徒から提示された資料
この時は，観光と空き家の両立が主な議題となり，京都の街並みを維持するために空き家を取り壊すのではなく，企業によるリフォーム，町家を生かした利用が提案された。

持続可能な京のまち（グループ）



上図，3人でグループを組み，テーマ設定を行った後のワークショップ時の板書。未来の提案が成功した京都のまちの図，そのために必要なもの，障害となるもの，テーマに関する現在の京都４つを絵に表し，その後，紙芝居のように全体へ発信し共有した。
（ワークショップ名：絵コンテ）

右図，絵コンテ作成時の様子



上図，絵コンテ作成からポスターセッションまでの流れを説明した際の板書

左図，グループごと絵コンテを使って自分たちの設定したテーマと現在の問題意識を発表している様子

持続可能な京のまち（グループ，ポスター作成）

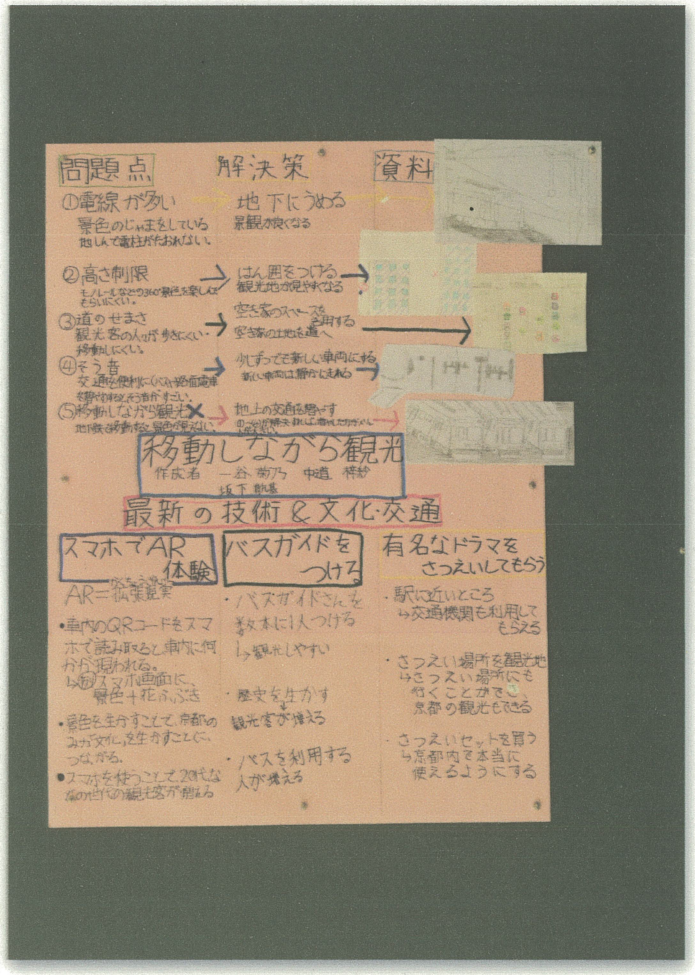
上図左，絵コンテ後にさらに必要な資料を調べたり，より具体的に関係しそうな周辺の事柄について対話する様子

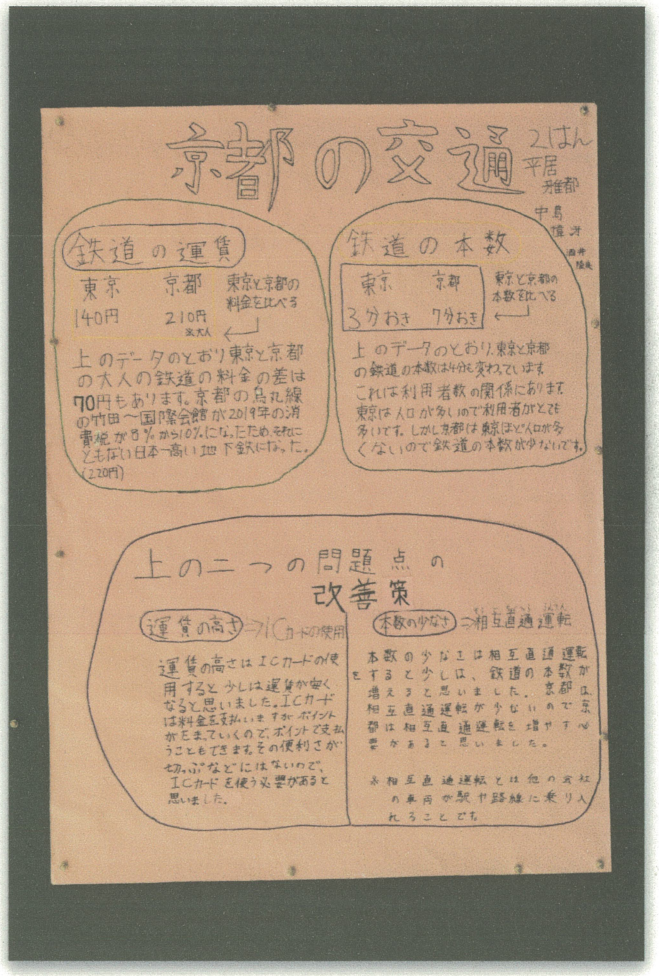
上図右，ポスターセッション用のポスターのイメージを掴むために，７年生，8年生の作成したポスターを見学している様子

上図４図，ポスター制作時の様子

持続可能な京のまち（グループ，ポスターセッション）

上図，ポスターセッション時の様子





上図，ポスターセッションに使ったポスター
ポスター集を作成（業者に依頼）